

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年11月7日（金）

2 確認箇所

構内道路（大熊通り）及び1号機原子炉建屋（1、2号機高圧開閉所付近から確認）（図1）

3 確認項目

1号機原子炉建屋大型カバー（可動屋根）の運搬及び設置状況

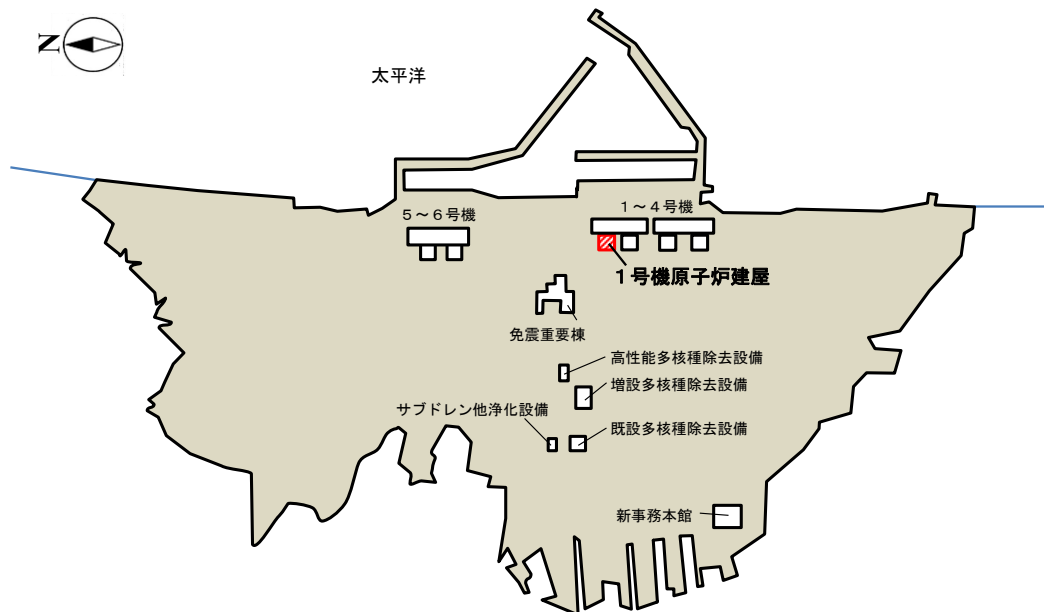
4 確認結果の概要

福島第一原子力発電所の1号機では、使用済燃料プールに現在も392体の燃料が保管されており、東京電力は、燃料を取り出し、より安定な冷却及び保管が可能な共用プールへの搬出を計画している。現在、1号機使用済燃料プール周辺には原子炉建屋の鉄骨等が瓦礫として崩落しており、作業に支障があることから、東京電力では、1号機原子炉建屋を覆う大型カバーを設置し、大型カバー内で瓦礫の撤去及び使用済燃料プール周辺の除染・遮へい等を実施した上で、燃料を取り出す方針である。大型カバーの屋根部は可動式（以下「可動屋根^{※1}」という。）であり、可動屋根の設置は、いくつかのブロックに分けて実施される計画である。県では、大型カバー設置の進捗状況を定期的に確認しており、本日は、可動屋根（1ブロック目）の運搬及び設置が開始されることから、作業の実施状況を確認した。（前回確認：令和7年10月23日）

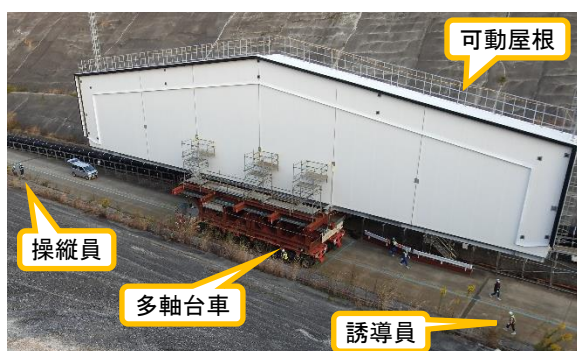
- ・可動屋根の1ブロック目（縦4.6m×横3m×高さ約1.4m）は、多軸台車（スーパーキャリア）に積載・固定された状態で構内道路を運搬され、1号機原子炉建屋北西側のヤードに到着した。（写真1）
- ・ヤードにて、可動屋根の多軸台車への固定が解除されるとともに、玉掛け（可動屋根下部のつり手へのワイヤロープの固定）が行われた。（写真2）
- ・その後、クローラクレーンにより可動屋根が吊り上げられ、可動屋根は大型カバーのボックスリング^{※2}上の所定位置へと設置された。（写真3、4）
- ・多軸台車による屋根の移動は、作業指揮者、操縦員及び誘導員（計10名程度）により、周囲の安全を確認しながら行われた。
- ・多軸台車の上部及び可動屋根の上部等の高所には、手すりが設置されるとともに、作業員は墜落制止用器具（フルハーネス型安全帯）を使用して作業を実施するなど、高所作業の安全対策が講じられていることを確認した。
- ・可動屋根の設置作業時には、作業員により声掛けが行われていた。
- ・確認した範囲で、機器の破損や資機材の散逸等は確認されなかった。

※1 可動屋根：通常は動かないように固定される。今後、大型カバー内への瓦礫撤去用天井クレーン及び燃料取扱装置の搬入等の作業は、可動屋根を開閉して実施される。

※2 ボックスリング：可動屋根や天井クレーンのレール等が設置される台座の部分。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



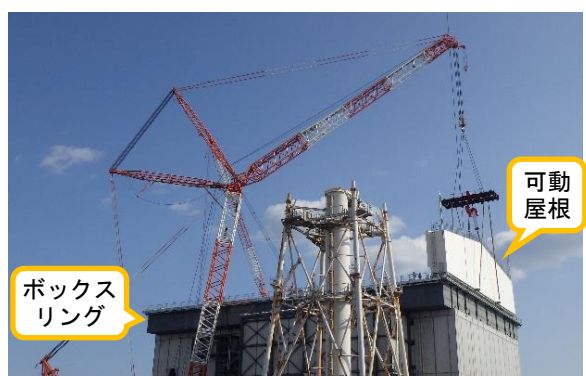
(写真1) 構内道路における可動屋根(1ブロック目)の運搬状況



(写真2) 1号機北西側ヤードにおける可動屋根へのワイヤロープの固定作業の実施状況



(写真3) クローラークレーンによる可動屋根(1ブロック目)の吊り上げ状況



(写真4) 可動屋根(1ブロック目)のボックスリング上への設置状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。